会誌「鉄と鋼」寄稿規程の改訂について

本会編集委員会は，多数会員のご要望により，かねてより会誌「鉄と鋼」の内容を向上するために，慎重に討議を重ねてまいりましたが，今回次の四つの方針を決め，直ちに実施することにいたしました．

（1） 従来，会員による自由投稿はほとんど論文と講演大要に限られておりましたが，今回新たに**研究速報，寄書，技術資料，誌上討論**の各欄を設け，これに自由に投稿できることにし，さらに**談話室，技術相談室**を設けて会員相互の親睦と啓発を計ることにいたします．

（2） **論文のページ数および図・写真の数は制限しないことにいたしました．**

（3） 従来の講演予稿は，その名称を「講演論文」と改め，その制限ページ数を**本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで**とし，とくに内容豊富なときは第1報・第2報の分割形式としても差支えないことにいたします．

（4） できるだけ活発に誌上討論をしていただくよう，その自由投稿を募るほか，協会からもご依頼いたします．

上記の方針に従い，会誌への寄稿規程を大幅に改めるとともに，新たに「寄稿要綱」の小冊子を作成いたしました．**昭和39年1月1日以降は，新しい寄稿規程に従つて原稿の執筆**をして頂くこととなります．

次に寄稿要綱の前文と，論文および講演論文の寄稿規程を掲載いたします．

「鉄と鋼」寄稿要綱

本協会会員は，会誌「鉄と鋼」に**論文，講演論文，研究速報，寄書，技術資料，誌上討論**を寄稿することができる．それらの原稿は，後記の**「鉄と鋼」寄稿規程**に従つて執筆されたものとする．

原稿は本協会編集委員会において審査され，その内容が鉄鋼に関する学術および技術の発展に寄与すると認められるものは受理される．

1) 論文　論文は本協会会員の独創になる学術上の研究成果および（あるいは）技術上の成果を主体とするもので，その内容は，本協会講演大会または支部講演会において，同一あるいは類似の研究課題について発表した研究結果を中核としてまとめたものとする．論文には研究目的，研究方法，研究結果，考察，従来のほかの研究との比較検討，結論などが正確にかつわかりやすく記述され，その研究が一応完結されたものを原則とする．原稿の長さ，図・写真・表の数に制限はないが，著者の独創的な寄与を明確に記述することを主眼とする．

2) 講演論文　講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために，その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し，講演論文集に掲載されるものである．講演論文の内容は著者の独創的研究結果で，少なくとも研究目的，研究方法，研究結果が正確に記述されているものとし，講演論文の長さは，**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで，図・写真はあわせて5枚以内**として，規程の締切日までに提出しなければならない．

3) 研究速報　研究速報は，本協会会員の独創的研究結果で，とくに発表期日の優先性を必要とする場合，その理由を明確にして寄稿する小論文で，原稿の長さは**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙6枚以内，図・写真はあわせて2枚以内**とする．受理年月日は原稿が本協会へ到着した日付とし，編集委員会の審査を経てほかの原稿に優先して会誌に掲載される．

4) 寄　書　寄書は著者の独創的研究結果のほか，既発表の他の理論に対する修正理論，鉄鋼生産技術あるいは試験法，分析法に関する提案などを編集者への短い通信の形で述べたものとする．

原稿の長さは，**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙4枚以内，図・写真はあわせて2枚以内**とする．

5) 技術資料　多くの本協会会員に参考となる確実な資料，たとえば新しい鉄鋼生産技術，最新の各種の試験法または試験結果，技術上有用な数値表，新技術の開発の基礎となる最近の諸研究あるいは基礎理論などを，直ちに利用できる図表，公式，理論などを含み総括的に記述するものとする．著者の独創になる研究結果が含まれなくてもよい．原稿の長さ，図・写真・表の数には制限はないが，なるべく簡明に記述する．

6) 誌上討論　本協会会員は，会誌「鉄と鋼」に掲載された論文および講演論文に対し誌上討論を寄せることができる．誌上討論は論文が会誌に掲載された後約2箇月以内に協会へ提出する．受理された誌上討論は原著者の返答文と共に，年2回（6月および12月）会誌に一括して掲載される．ただし講演論文に対する誌上討論は，その講演論文を主体とする本論文と同時掲載されることがある．以上のほか，会員交流の窓口としての談話室，技術相談室へも自由に投稿することができる．

「鉄と鋼」寄稿規程

「鉄と鋼」寄稿規程は，下記のとおり**論文，講演論文，研究速報および寄書，技術資料，誌上討論**について定める．

1. 論文寄稿規程

(1) 論文は本会誌に載せる前に，ほかの学協会誌およびそれに類する刊行物に発表されないものに限る．

(2) 論文は原則として，本協会講演大会または支部講演会において，同一あるいは類似の研究課題について発表した独創的寄与を主体としてまとめられたものとする．

(3) 論文には，研究目的，研究方法，研究結果，考察，従来の研究との比較検討，結論などが正確にかつわかりやすく記述されているものとする．

(4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる．原稿の表紙には所定事項を確実に記入し，原稿は左横書きとする．

(5) 平易な口語体を用い，漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い，かなは新かなづかい（第4表の例を参照）によること．周知でない術語や装置などについては，十分にわかりやすく説明をする．

(6) 論文には必ず英文題目，500 語以内の英文要旨，英文要旨の和訳文を添付する．英文要旨は Tetsu-to-Hagané-Overseas に掲載されるので，それによつて論文の主要な成果が具体的にわかるように書かれていなければならない．

(7) 論文の原稿の長さ，図・写真・表の数には制限を設けないが，文章は明確さを失わない限度においてできるだけ簡潔にし，著者の独創的な寄与を明確に記述することを主眼とする．また図・写真・表は必要最小限にとどめ，重複を避け，同一事項を図・表・両方で表わさないこと．

(8) 文章には，最も読みやすくするため，句点（，）および終止点（．）を適当に付ける．いずれの場合にも原稿用紙の1こまをあてる．

(9) 数量をあらわす場合にはアラビア数字を用い，単位は原則としてCGS単位系を用いるが，電磁気量の場合にはMKS単位系を用いてよい．単位の略記号は第1表の例に従う．周知でない単位には略記号を用いないこと．

(10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが，周知のものはかたかな書きとする．元素名，合金名，化合物名はなるべく化学記号によつて示すが，周知の合金名，化合物名は化学記号表示を行なう必要はない．（第2表の例参照）

(11) 英字，数字，ギリシャ文字はていねいに記し，混同しやすい文字はとくに注意して書くこと．英字の大文字，小文字，ギリシャ文字で混同しやすい文字にはとくに赤字で㊤，㊦，㊥などと傍記する．ゴヂック，イタリックを指定するときは，その文字の下にそれぞれ———，～～～を付けること，添字の上ツキ，下ツキは正確に記すこと．

(12) 数式は印刷に便利なように注意し，b/a，$(a+b)/c$ のように，不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く．

(13) 表はなるべく本文中に挿入すること．1つの表の大きさは，会誌の1ページの面積を考慮し，横の刷り上がり寸法 7cm または 14·5cm，縦の刷り上がり寸法 18cm 以内におさまるようにする．

(14) 図・写真・表の説明は英文とする．その説明文によつて，図・写真・表の意味が理解できる程度に書くこと．写真には必ず倍率を記入する．

(15) 図および写真は，横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように，刷り上がり寸法の2～3倍大とし，下記の縮尺記号を記入しておくこと．

(イ) 横 7cm（縮尺A），(ロ) 横 14·5cm（縮尺B）

刷り上がり後の縦の寸法は 18cm 以内とする．

図は白紙，オイルペーパーまたは青色方眼紙を用いて書き，図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと．

(16) 図および写真は散逸を防ぐため，原稿用紙または適用な大きさの台紙に貼付し，右下隅に著者名を記入すること．図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし，原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する．原稿本文中に，図・写真挿入箇所を空白にあけないこと．

(17) 参考文献は，通し番号を付け，本文の最後に一括して番号順に示し，本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す．

参考文献は著者名：雑誌名，巻数(発行年度)，号数，ページ数の順に記載すること．

(例) R. K. Glass: Blast Furn. & Steel Plant, **46** (1958), 2, p. 198～204

雑誌名は第3表の略記例に従う．単行書は，著者名：書名，(発行年度)，ページ数，[出版社名]の順に記載する．

(18) 寄稿論文の受理年月日は，原稿が本協会に到着した日付とする．論文の内容の主要部が本協会講演大会で発

表されている場合には，その講演論文を参考文献として示す．

(19) 寄稿論文は編集委員会において審査される．下記の各項のいずれかに該当する論文は受理されない．

(a) 学術および技術への寄与が非常に少ないと考えられる場合．

(b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合．

(c) その論文に直接関連する従来の主要な研究に対する比較検討が正確かつ十分に行なわれず，著者の独創的寄与が明確でない場合．

(d) 講演論文によつて十分にその研究成果の発表の目的が達せられており，とくに論文として会誌に載せる必要がないと考えられる場合．

(e) 論文の内容に顕著な誤りが含まれている場合．

(f) 文章が非常に難解である場合．

(g) 寄稿規程のいずれかの項に著しく違反する場合．

また審査の結果，修正，加筆，削除などを要求し，原稿をいつたん著者に返却することがある．その場合，修正原稿を1カ月以上経過して協会に再提出したときは，新規提出とみなされる．

(20) 掲載論文については別刷20部を贈呈，20部を超え別刷を希望するときは超過分に対して所定の料金を申し受ける．

2. 講演論文寄稿規程

(1) 講演論文は，本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る．

(2) 講演論文は，年2回（春，秋）開催される本協会講演大会において発表する予定の研究成果をまとめ，本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする．

(3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので，少なくとも研究目的，研究方法，研究結果が明確に記述されているものとする．内容が豊富な場合には，第1報，第2報の分割形式としてもよい．

(4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる．原稿の表紙には所定事項を確実に記入し，原稿は左横書きとする．

(5) 平易な口語体を用い，漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い，かなは新かなづかい（第4表の例を参照）によること．

(6) 講演論文には必ず英文題目，100語以内の英文要旨，英文要旨の和訳文を添付する．英文要旨は編集委員会で審査の結果，Tetsu-to-Hagané Overseas に掲載されることがあるので，それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること．

(7) 講演論文の原稿の長さは，**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで**の範囲内に限定し，**図および写真はあわせて5枚以内**とする．図および写真の占める面積については，下記の(15)項を参考にして正しく算定し，原稿枚数が規定外にならないようにする．また同一の事項を図・表両方で表わさないこと．

(8) 文章には，最も読みやすくするために句点（，）および終止点（．）を適当に付ける．いずれの場合にも原稿用紙の1こまをあてる．

(9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い，単位は原則としてＣＧＳ単位系を用いるが，電磁気量の場合にはＭＫＳ単位系を用いてよい．単位の略記号は第1表の例に従う．周知でない単位には略記号を用いないこと．

(10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが，周知のものはかたかな書きとする．元素名，合金名，化合物名はなるべく化学記号によつて示すが，周知の合金名，化合物名は化学記号表示を行なう必要はない．（第2表の例参照）

(11) 英字，数字，ギリシャ文字はていねいに記し，混同しやすい文字はとくに注意して書くこと．英字の大文字，小文字，ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字で㊦，㊧，㊨などと傍記する．ゴヂック，イタリックを指定するときは，その文字の下にそれぞれ———，〰〰を付けること．添字の上ツキ，下ツキは正確に記すこと．

(12) 数式は印刷に便利なように注意し，b/a，$(a+b)/c$ のように，不明確にならない程度になるべる少ない行数で表わすように書く．

(13) 表はなるべく本文中に挿入すること．1つの表の大きさは，会誌の1ページの面積を考慮し，横の刷り上がり寸法 7cm または 14·5cm，縦の刷り上がり寸法 18cm 以内におさまるようにする．

(14) 図・写真・表の説明は英文とする．写真には必ず倍率を記入する．

(15) 図および写真は，横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように，刷り上がり寸法の2～3倍大とし，下記の縮尺記号を記入しておくこと．

(イ) 横 7cm（縮尺A）．(ロ) 横 14·5cm（縮尺B）

刷り上がり後の縦の寸法は 18cm 以内とする．

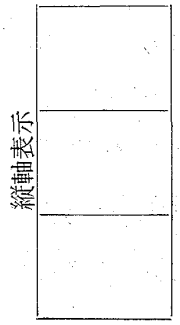
図および写真の横の縮尺が上記のように定まれば，縦の刷り上がり寸法も定められるから，図および写真

の占める面積を算出し，下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め，原稿の長さが本規程（7）の範囲外にならないようにする．

縮尺Aの場合，刷り上がり面積 420cm² は 400 字，すなわち所定原稿用紙1枚に相当する．

縮尺Bの場合，刷り上がり面積 870cm² は 800 字，すなわち所定原稿用紙2枚に相当する．

図および写真を並列して1個に取り扱うことができるのは，下記の数例の場合に限る．



横軸表示(各図共通)
Fig.○ 説明文

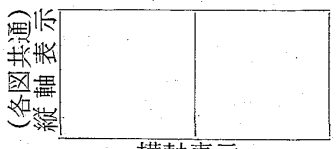


Fig.○ 説 明 文

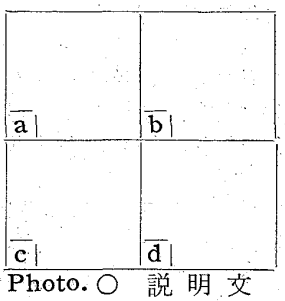


Photo.○ 説 明 文

図は白紙，オイルペーパー，または青色方眼紙を用いて書き，図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと．

(16) 図および写真は散逸を防ぐため，原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し，右下隅に著者名を記入すること．図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし，原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する．原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあけないこと．

(17) 参考文献は，通し番号を付け，本文の最後に一括して番号順に示し，本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す．

参考文献は著者名：雑誌名，巻数(発行年度)，号数；ページ数の順に記載すること．

（例） R. K. Glass: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958), 2, p. 198～204

雑誌名は第3表の略記例に従う．単行書は，著者名：書名，(発行年度)，ページ数，[出版社名]の順に記載する．

第2報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと．

(18) 寄稿された講演論文の受理年月日は，本協会で定めた講演論文原稿締切日とする．

(19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される．下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない．

（a） 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合

（b） 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合

（c） その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示してない場合

（d） 寄稿規程の（6），（7），(15)，に確実に従つていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合

（e） 内容に顕著な誤りが含まれている場合

また編集委員会において，内容の一部を修正，削除することがある．

(20) 支部講演会における発表は，講演論文の形では受理しないので，早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること．

(21) 講演論文の原稿は返却しない．また講演論文の別刷の印刷は行なわない．

注） 新しい寄稿規程の附表（第1ないし4表）は次号に掲載する．したがって，昭和 39 年度春季講演大会の講演論文原稿における単位の略記号，元素名，合金名，化合物名の表示法，文献の略記法などは従来どおりとする．

中国四国支部講演会，見学会開催のお知らせ

中国四国支部では日本金属学会支部と共催で下記講演会と見学会を開催いたしますので，多数会員ご参加下さるようご案内いたします．

記

講　演　会

日　時　昭和 38 年 11 月 21 日（木）12・30〜16・30
会　場　愛媛大学工学部大講堂　松山市道後町城北（市電城北線　日赤前下車）
講　演　12・30　鋼材の最近の溶接　名古屋大学工学部教授　関口　春次郎
14・30　欧州におけるプレス加工
新三菱重工業(株)水島自動車製作所　熊　沢　猛　彦

見　学　会

日　時　昭和 38 年 11 月 22 日（金）
9・30（国鉄松山駅前集合）〜14・00（国鉄松山駅前解散）
見学工場　10・00〜12・00　丸善石油(株)松山製油所
12・30〜13・30　井関農機株式会社
参加費　1 人 300 円

なお参加申込みは広島市八丁堀26（中国産業会館内）日本鉄鋼協会中国四国支部宛 10 月 31 日までにお申込み下さい．

北陸支部秋季講演会開催のお知らせ

本会北陸支部では，下記の通り秋季講演会および見学会を開催いたします．会員多数ご参加下さるようご案内いたします．

記

講　演　会

期　日　昭和 38 年 11 月 21 日（木）
会　場　富山大学工学部
講　演　研究発表講演 19 件

見　学　会

日　時　昭和 38 年 11 月 22 日（金）午前 9・00
見学工場　1）田中精密(株)(富山市)，2）吉田工業(株)(黒部市)，
3）日本製練(株)三日市工場(黒部市)（同業者お断わり）
参加費　350 円（バス代および昼食代）
申込締切　昭和 38 年 11 月 16 日まで
申込先　高岡市古定塚富山大学工学部内　日本鉄鋼協会北陸支部

東北支部特別講演会開催のお知らせ

下記により特別講演会を開催いたしますので，多数会員ご来聴下さるようご案内いたします．

日　時　昭和 38 年 11 月 22 日（金）13・30
場　所　東北大学工学部金属材料工学科第一講議室
講　演　最近の鉄鋼生産技術における２，３の趨勢について
講　師　八幡製鉄株式会社副社長　湯　川　正　夫 君